

『まだ』の先に、未来がある

足寄町立足寄小学校長 池田 圭子

子どもたちの可能性を信じる二学期に

長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに友達と笑顔で言葉を交わす姿を見ていると、学校にまた子どもたちの時間が戻ってきたことをうれしく感じます。この夏、家族と過ごした時間、好きなことに夢中になった時間、新しいことに挑戦した経験など、一人一人にそれぞれの夏があったことでしょう。子どもたちを温かく支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。二学期も、勉強や運動、友達との関わり、学校行事など、子どもたちはさまざまなことに挑戦します。もちろん、「難しいな」「うまくできないな」と感じることもあるでしょう。

「マインドセット」って何だろう？

そんなときに大切にしたいのが、「マインドセット」という考え方です。マインドセットとは、物事をどのように受け止め、どのように考えるかという「心の持ち方」のことです。教育心理学者のキャロル・ドゥエック氏は、努力や経験、学びによって自分の力を伸ばしていこうとする「成長型マインドセット (growth mindset)」について研究しました。

この考え方を、子どもたちにも分かりやすく表す言葉があります。それが「まだ」です。

「できない」ではなく、「まだできない」

問題が解けない。逆上がりができない。人前で話すことが苦手。そんなとき、「自分にはできない」と決めてしまうのではなく、「まだできない」と考えてみる。「今はできないけれど、どうしたらできるだろう。」「もう一度やってみよう。」「やり方を変えてみよう。」「誰かに聞いてみよう。」「まだ」という二文字が加わると、見える景色が少し変わります。大切なのは、「まだできない」と思えば必ずできるようになる、ということではありません。今の自分を受け止めながら、「では、次に何ができるだろう」と考え、自分なりの一歩を踏み出すことです。

大谷翔平選手に学ぶ「今日の一步」

そのことを考えるとき、大谷翔平選手が高校時代に作った「目標達成シート」を思い出します。大谷選手は、大きな目標を掲げるだけでなく、その目標に近づくために「何をすればよいのか」を具体的に考え一つ一つの行動に落とし込んでいました。

大きな目標も、始まりは今日できる小さな一歩です。

「できるか、できないか」だけではなく、「では、どうしたらできるようになるだろう」と考えてみる。これは、本校が大切にしている、「自分で考え 自分で決めて 自分で行動する子」にもつながっています。うまくいかなければ、考え直す。やり方を変える。誰かに相談する。そして、もう一度やってみる。その一歩一歩が、子どもたちの力になっていきます。

「まだ」を、みんなで支える

子どもたちは、これからもたくさんの「できない」に出会うでしょう。勉強で間違えることも、友達との関わりで悩むことも、何度やってもうまくいかないこともあるかもしれません。だからこそ、私たち大人も、結果だけを見るのではなく、「挑戦したね。」「工夫したね。」「前よりできるようになったね。」「次はどうしてみようか。」と、子どもたちの歩みを認め、励ましていきたいと思えます。家庭での何気ない一言、地域での温かな声かけ、学校での教師の励まし。その一つ一つが、子どもたちの「もう一度やってみよう」という力になります。「どうしてできないの？」ではなく、「まだできないんだね。じゃあ、次はどうしてみようか。」そんな言葉を、学校・家庭・地域で大切にしていきたいです。

「まだ」の先にある未来

子どもたちの「できた！」を喜ぶことはもちろん、「やってみたよ」「もう一回やってみる」という姿も、大切にしたいと思います。子どもたちの「まだ」は、失敗ではありません。それは、これからの可能性です。

私は、「できた！」と笑う瞬間だけでなく、「まだできないけれど、もう一度やってみよう」と顔を上げる瞬間にも立ち会いたいと考えています。一人一人の「まだ」の先には、まだ見えていない未来があります。

子どもたちが自分の力を信じ時には誰かの力も借りながら、自分で考え、「やってみよう」と一歩を踏み出す。そして、その一歩を、みんなで喜べる二学期にしたいとです。「まだ」の先に、未来がある。そのことを子どもたちと一緒に感じながら、保護者の皆様、地域の皆様とともに、子どもたちの成長を見守り、喜び合ってまいります。

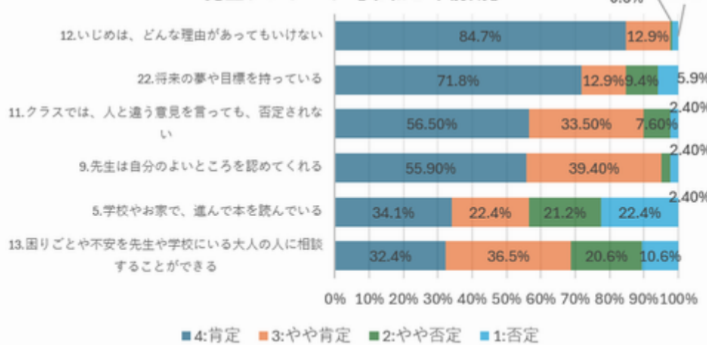
二学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年度 前期 学校評価アンケート

児童アンケート結果

★グラフは一部抜粋

児童アンケート【令和8年前期】



1：成果（完全肯定「4」：本校の強み）

児童が強い自信を持って「できている」と回答した項目

☆人権意識が高い

「いじめは絶対にいけない」という肯定が84.70%に達し、全項目中で最高値。本校の人権教育が児童の倫理観に深く根付いている証左。

☆心身の活力と自己実現へ希望がある

「将来の夢や目標を持っている」が71.80%、「進んで体を動かしている」が70.00%と高く、心身ともに健康で前向きな児童が多い傾向にある。

☆安全・信頼の土壌

「命や体を守るルール」の意識（68.20%）や、「先生は自分のよいところを認めてくれる」という実感（55.90%）も半数を超えており、学校内での基礎的な信頼関係は構築されていると考えられる。

2：課題（否定「1+2」：本校の弱点）

児童の主観において「不十分である」と回答した項目

★読書習慣の形骸化

否定評価（1+2）が43.60%と高く、自律的な読書習慣の欠如が顕著。活字離れによる思考力への影響が危惧される。

★大人への相談における心理的障壁

「困りごとを先生や大人に相談できる」の否定評価が31.20%。完全肯定（32.40%）とほぼ同等であり、児童の約3人に1人が相談に躊躇している現状がある。

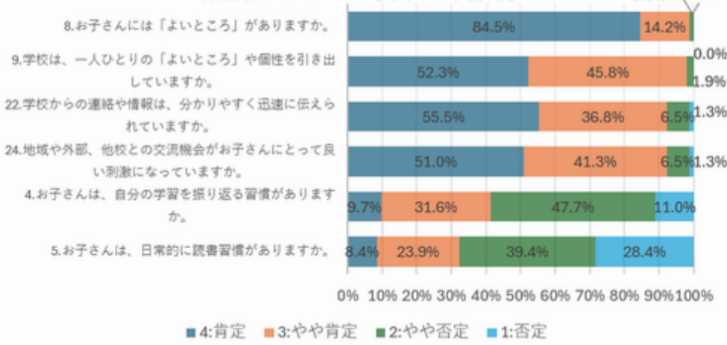
★メタ認知（振り返り）の不足

「学習したことをふり返っている」の否定評価は28.30%であり、完全肯定（27.10%）を上回っている。学びを定着させ、自律的に改善していく力が育ちにくい環境であることを示唆している。

保護者アンケート結果

★グラフは一部抜粋

保護者アンケート【令和8年前期】



1. 成果（完全肯定「4」：本校の強み）

保護者が「できている」と回答した項目

☆子供への肯定的な見守りがある

「お子さんには『よいところ』がありますか」に対し84.50%が肯定しており、家庭内での自己肯定感を育む土壌がある。

☆学校運営・環境への評価

「学校の活気（55.50%）」「学校からの迅速な連絡（55.50%）」「一人ひとりの個性を引き出す指導（52.30%）」がいずれも過半数を超えており、学校の組織的な教育活動と情報発信の姿勢が評価されている傾向がある。

☆基本的生活習慣と成長の場

「早寝早起き等の健康習慣（51.60%）」や「学校行事を通じた成長・自信（49.70%）」も高い肯定を得ており、健全な生活基盤と行事を通じた成長が実感されている傾向にある。

2. 課題（否定「1+2」：本校の弱点）

保護者の主観において「不十分である」と回答した項目

★読書習慣

否定評価が67.80%と高く、最大の課題。家庭での読書習慣がほぼない現状に対し、約7割もの保護者が非常に強い危機感を抱いている傾向にある。

★自律的な学習（振り返り）の欠如

否定評価が58.70%に達し、完全肯定（9.70%）を上回っている。学びを自分のものとして定着させる「振り返り」のサイクルが家庭学習において機能しておらず、定着への不安がある傾向にある。

★表現力の伸び悩み

「自分の考えを他人に伝える工夫」への否定評価が34.20%。単なる知識の習得に留まらず、それを言語化して他者に伝えるスキルの育成が不十分であると保護者は捉えている傾向がある。

★情報モラル・利用ルールの形骸化

スマホやゲームのルール遵守に対する否定評価が32.30%。児童の自己評価（否定21.3%）よりも10ポイント以上高く、家庭内でのルール指導の難しさや、守れていない実態が浮き彫りになっている傾向がある。

★将来への対話の不足

「将来や夢について前向きに話しているか」への否定評価が30.40%。児童自身の「夢を持っている」という高い数値（71.80%）に対し、それが家庭内での具体的な対話や希望として共有されていない傾向がある。



令和8年度 前期学校評価アンケート

三者（児童・保護者・教職員）に関する傾向と対策

令和8年度 学校評価（前期）のアンケート結果に基づき、児童、保護者、教職員の三者の認識を相関させることで見えてくる傾向の詳細を示した。「4：肯定（完全肯定）」のみを成果とし、「1：否定+2：やや否定」の合算を課題として分析。

1. キャリア教育

傾向	児童は自立的な「夢」を抱いているものの、学校の指導体制が追いつかず、家庭での対話にも繋がっていないという「意識の空回り」状態が起きている。
成果（肯定4）	児童の71.8%が「将来の夢や目標を持っている」と回答しており、内発的な意欲は高い状態。
課題（否定1+2）	教職員の「将来の夢や社会貢献の意欲を育む指導」への完全肯定（4）は0.0%であり、否定評価が46.2%（やや否定46.2%）。指導側の自信のなさを反映するように、保護者も子供が「夢について前向きに話している」と肯定している層は22.6%に留まり、30.4%が否定的評価となっている。
改善策	児童の夢や目標を学校・家庭・地域でつなぎ、支える取組を充実させるため、学校運営協議会の「挑戦を応援するプロジェクト」を継続する。また、日々の授業の中で「この学びは将来どのようなことにつながるか」を考える機会を設け、学びと夢のつながりを意識できるようにする。さらに、学級懇談会や学級通信等を通して児童の「夢・好きなこと・頑張りたいこと」を保護者と共有し、学校と家庭が連携して夢の実現を支える環境づくりを進める。

2. 学習習慣（振り返り・読書）学校では令和8年4月より全学年で毎日読書の時間を設け取り組んでいます。2学期も継続していきます。

傾向	教員の「指導時間の不足」が、児童の「形式的な取り組み」を招き、それが家庭での「定着不足」として直結している「負のサイクル」の傾向が見られる。
成果（肯定4）	読書への取り組みについて、教職員の30.8%は工夫していると自負しているが、児童の完全肯定は34.1%、保護者に至ってはわずか8.4%。
課題（否定1+2）	「学習の振り返り」について、保護者の否定評価は58.7%と高く、教職員の否定評価46.2%と相関している。教員側が授業内で振り返り時間を十分に確保できていない自覚があり、振り返りが定着しておらず、それが家庭での「やりっぱなし」の状態となっているのではないかと考えられる。
改善策	学校での学びを家庭での学習習慣につなげるため、「振り返りを増やす」のではなく、「短くても毎日必ず振り返る」ことを徹底する。「今日わかったこと」「今日できるようになったこと」「次に取り組むこと」などを継続的に記録し、学びや成長が見える化する。また、ICTツールを活用して児童及び保護者と共有することで、成長の実感と学習意欲の向上につなげる。あわせて、本年度4月より開始した毎日の読書活動を継続し、学習習慣の定着を図る。（教務部）

3. いじめ防止と人権意識

傾向	児童と教職員の間で「いじめは許されない」という規範意識が強固に共有されているが、保護者は学校の「対応のスピード」に対してより高い基準を求めている傾向にある。
成果（肯定4）	児童の84.7%が「いじめは絶対にいけない」と強く認識し、教職員も69.2%が「未然防止・早期発見の体制」に自信を持っている傾向がある。教職員の否定評価（1+2）が0.0%である点は特筆すべき成果。
課題（否定1+2）	児童の否定評価は2.4%と極めて低いが、保護者の完全肯定は40.6%に留まっている。これは学校側の「体制」は整っているものの、実際のトラブル時の「迅速な対応（保護者アンケートQ12）」については、まだ改善の余地があると感じられていることを示唆している。
改善策	「些細な変化にも迅速に対応してくれる学校」という安心感を今後も継続・向上させるため、教職員間の報告・連絡・相談を徹底し、組織的な対応体制を強化する。また、「予防の学校」から「予防+対応が見える学校」へと発展し、児童・保護者にとってより安心感のある学校づくりを推進する。

4. SOS相談体制

傾向	教職員が体制構築に自信を持っていないことが、児童の相談への躊躇を招き、保護者の「把握しきれない不安」に繋がっている傾向にある。
成果（肯定4）	どの層も完全肯定が3割前後（またはそれ以下）に留まっており、成果と言えるデータがない。
課題（否定1+2）	児童の31.2%が「先生や大人に相談できる」ことに否定的であり、教職員の「SOS相談体制の構築」への完全肯定はわずか7.7%。保護者の完全肯定も32.9%に過ぎず、三者ともに「現在の体制では不十分」という認識がある。
改善策	児童が安心して相談できる環境づくりと、相談を適切に受け止める体制づくりの双方に課題が見られることから、「相談したいときに、相談先や相談方法を自分で選べる学校」の実現を目指す。教職員への直接相談に加え、アンケートやICTツールの活用など、多様な相談手段を整備するとともに、どの相談も確実に受け止め、組織的につなぐ体制を構築・実践する。児童一人一人が「困ったときには必ず誰かに相談できる」と実感できる学校づくりを推進する。（指導部）

前期の学校評価では、あえて「十分にできている」という視点で振り返りを行いました。その結果、足寄小学校のよさと、これからさらに大切にしていきたいことが見えてきました。

何よりうれしかったのは、多くの保護者の皆様が「わが子にはよいところがある」と感じてくださっていることです。また、子どもたちの多くが「いじめは絶対にいけない」と考えていることも、本校の誇りです。家庭や地域の皆様の温かな支えが、子どもたちの心を育んでくださっていることを改めて実感しました。

一方で、子どもたちの夢や悩みに、私たち大人がもっと耳を傾け、寄り添っていく必要があることも分かりました。

そこで2学期は、「先生が教える学校」から「子どもが自ら学び、考え、行動する学校」へ、さらに歩みを進めます。子どもたちが自分で考え、自分で決め、一歩を踏み出せる力を育むとともに、困ったときには安心して「助けて」と言える学校づくりを進めてまいります。

子どもたちの可能性は無限です。学校・家庭・地域が心を合わせ、一人一人のよさと未来を大切に育んでいきたいと思えます。子どもたちの笑顔のため、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。今後とも温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 池田圭子

8月の教育活動

検証改善

学校評価をもとにしたワークショップ開催

7月の学校評価をもとに、夏休みに足寄小学校の教職員で「学校評価検証改善ワークショップ」を行いました。学校評価の児童・保護者・教職員自己評価アンケートを総合的にとらえ、成果と課題を明らかにし（足寄小の実態を明確化）、改善策を協議しました。2学期からどのような教育活動を展開すると教育の質の向上となるか具体的に話し合いました。今後、実践につなげてきます。

児童が相談しやすい 体制づくり

全ての児童に複数の相談手段を保障し、寄せられた相談を100%受け止めて組織的な支援につなげます。

学習の振り返りの 習慣化

全ての児童が毎日必ず振り返りを行い、自らの学びと成長を見える化します。

「夢」を支える キャリア教育の再定義

全ての児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて挑戦できるよう、学校・家庭・地域が連携して支援します。

2学期元気いっぱいスタート

2学期始業式は、秋を感じさせる涼しい陽気の中、全校児童が体育館に集まって行いました。児童のピアノ伴奏による校歌斉唱では、子どもたちの元気な歌声が響き、学校に活気が戻ってきました。代表児童による夏休みの思い出や2学期の抱負の発表では、一人一人の意欲が感じられました。校長の話では、周りの人への感謝を言葉で伝えることの大切さを話しました。各学級でも2学期の目標を立て、「自分で考え、自分で決めて、自分で行動する」2学期のスタートを切りました。



未来の町づくりを考える一歩に ～子ども議会を傍聴して～



8月27日、町で開催された子ども議会を、本校の6年生が傍聴しました。足寄中の3年生が町の課題や将来について考え、自分たちの意見や提案を発表する姿に、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

議会の傍聴は、町づくりや社会の仕組みへの理解を深めるとともに、自分たちが地域の一員であることを実感する貴重な機会です。6年生からは、「町のためにできることを考えてみたい」「地域のことをもっと知りたい」といった感想が聞かれました。

今回の学びを今後の総合的な学習や社会科の学習などにつなげながら、ふるさとへの愛着を深め、よりよい町づくりについて主体的に考える力を育てていきます。

子どもたちの「やってみたい!」が輝いた作品展

夏休み作品展では、子どもたちの力作がずらりと並び、一人一人の頑張りや工夫が伝わってきました。

こうした学びや挑戦の背景には、ご家庭での温かな励ましや見守りがあります。材料の準備や声かけなど、子どもたちを支えてくださった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

今後も学校と家庭で力を合わせ、子どもたちの成長を応援していきたいと思っています。ありがとうございました。

9月の行事予定

1日(火)	武蔵野大学プレ実習 見学体験学習(3年)	16日(水)	水泳(3年)
2日(水)	水泳(1・2年) 未来の教員育成プログラム(～4日)	17日(木)	修学旅行 水泳(5年)
3日(木)	水泳(5年) 虫の体づくり出前授業(3年)	18日(金)	修学旅行
4日(金)	水泳(6年)、クラブ	21日(月)	敬老の日
7日(月)	水泳(4年)	22日(火)	国民の休日
8日(火)	森林学習(5年)	23日(水)	秋分の日
9日(水)	避難訓練	24日(木)	移動図書 知能検査(1年)
11日(金)	水泳(5年)	25日(金)	見学学習(1年)
14日(月)	水泳(1・2年) 見学学習(3年)	29日(火)	地層学習(6年)
15日(火)	芸術鑑賞会		

